

◎ 各消毒の方法による効果の違い

	効果有
ウィルス	エタノール(アルコール) 次亜塩素酸ナトリウム(塩素) 熱(煮沸・蒸気)
結核菌	エタノール(アルコール) 両性界面活性剤 熱(煮沸・蒸気)

◎ 芽胞について

熱に対しても消毒薬に対しても一番強い抵抗性をもっているのは、炭そ菌や破傷風菌などの芽胞である

◎ 殺菌作用の3要素

消毒薬の効力は、温度・濃度・時間に大きく左右される

◎ 消毒薬・消毒液の使用、保存上の注意

- ①消毒薬は日光が直接あたらないところに、栓をかたくして保存する  
(塩素剤は、日光と熱によりふんかいされ、効力がよわくなるので、原則として冷暗所(15℃視以下)に置かなければならない)
- ②食品などまちがえやすい容器や場所に入れておいたり、子供の手の届くところに置いたりしてはいけない
- ③消毒用エタノールは、蒸発や汚れの程度にもよるが、7日以内に取りかえるようにする。
- ④その他の希釈した消毒液は、毎日取りかえなければならない  
(使用頻度が激しく、汚れが目立つようであれば、すぐに取りかえるようにする)

◎ 創傷用の消毒薬に望まれる条件

- ①人体に対する毒性が弱いこと
- ②使用時に刺激が少ないこと
- ③傷口の回復を阻害しないこと
- ④作用が持続すること

◎ すぐれた消毒法の条件

- ①消毒の効果が確実であること
- ②短時間に消毒されること
- ③方法が簡単であって、費用も多からないこと
- ④消毒する物件を損なわない方法であること
- ⑤いつでも、また、どこでも実行できる方法であること
- ⑥消毒を行う際に人畜に対して毒性が低いこと
- ⑦消毒した物件に悪臭を残さないこと
- ⑧必要であれば、表面のみでなく、内部をも、消毒しうること

◎ 消毒を行う際の注意事項

- ①消毒するものの性質に注意し、適当な消毒薬や消毒法を選ぶこと
- ②病原微生物の種類、抵抗力に応じた方法、時間などを考えること
- ③消毒薬は、ときどき新しくつくりなおすこと
- ④薬品は密栓し、冷暗所に保存すること。ラベルを汚さないようにして、他のものとよく区別しておくこと
- ⑤食品に使う容器を使用してはならない

◎ 器具類の消毒法の選び方

	適する消毒法	備考
ガラス器、陶磁器など	紫外線、煮沸、蒸気、各種の薬液消毒	材質的には、ほとんどすべての消毒法を用いてさしつかえない。
金属製品	逆性せっけん、両性界面活性剤 グルコン酸クロルヘキシジン エタノールで拭く、紫外線、蒸気、煮沸	刃物の場合は切れ味をそこわず、さびもでないエタノールで拭く方法が適している。
クリッパー類	逆性せっけん、両性界面活性剤 グルコン酸クロルヘキシジン エタノールで拭く、紫外線	
セルロイド、プラスチック、ゴム 竹、木、べっこう、象芽など	逆性せっけん、両性界面活性剤 グルコン酸クロルヘキシジン 紫外線	エタノール、加熱消毒は避ける。 また、長時間薬液につけることも避けること。
タオル	次亜塩素酸ナトリウム	色物は、塩素系薬剤で色落ちすることがあるので注意。
革製品	逆性せっけん、両性界面活性剤 グルコン酸クロルヘキシジン エタノールで拭く、紫外線	材質を損ないやすいので薬液による消毒は、拭くだけにする。 熱消毒と長時間薬液につけることは避けること。